研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-730		20-088	滋滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Endothelial function is preserved in light to moderate alcohol drinkers but is impaired in heavy drinkers in women: Flow-mediated Dilation Japan (FMD-J) study
軽度および中等度女性飲酒者の血管内皮機能は保持されるが、多量飲酒者においては保持されない：日本血流依存性血管拡張反応（flow-mediated dilation; FMD）研究

執筆者

Oda N, Kajikawa M, Maruhashi T, Kishimoto S, Yusoff FM, Goto C, Nakashima A, Tomiyama H, Takase B, Yamashina A, Higashi Y.

掲載誌

PLoS One. 2020 Dec 3;15(12):e0243216. doi: 10.1371/journal.pone.0243216. eCollection 2020.

キーワード	PMID
血管内皮, 血管拡張, 血圧, 飲酒, 血管	33308409

要　旨

目的：
軽度および中等度のアルコール摂取は、女性の全死亡および冠動脈疾患の予防効果がある。軽度から中等度のアルコール摂取は、女性の血管機能に有益な影響を与えると考えられており、血流依存性血管拡張反応（FMD）を用い評価した。

方法：
17－86 歳の 702 人の女性を対象に、FMD を測定した。対象者を非飲酒者（0 g/週）、軽度の飲酒者（＞0～140g/週）、中程度の飲酒者（140～280g 以上/週）、大量飲酒者（280g 以上/週）の 4 群に分け、FMD 値を比較した

結果：
4 つの飲酒グループ間で FMD の値に有意な差はなかった。多変量回帰分析では、非飲酒者および軽度飲酒者において、アルコール摂取量は、FMD の独立した予測因子ではなかった（β ＝ －0.001, P = 0.98）。中等度の飲酒者 50 名と非飲酒者 50 名および多量飲酒者 22 名と非飲酒者 22 名に対してマッチドペア解析を行った結果においては、中等度の飲酒者と非飲酒者の間では、FMD に有意な差はなかったが（8.2±4.3% vs. 8.1±3.5, P = 0.91）、多量飲酒者においては、非飲酒者の FMD よりも有意に低かった（5.9±2.5% vs. 8.9±3.5%、P = 0.002）。

結論：
女性において、大量のアルコール摂取は内皮機能障害と関連するが，軽度から中等度のアルコール摂取は内皮機能障害と関連しないことが示された。